

《元気な金目 未来につなぐ》

# 金目エコだより

発行日 令和5年2月1日  
 発行者 金目エコミュージアム広報委員会  
 連絡先 平塚市立金目公民館内 ☎58-0101  
<http://hiratsuka.johokyoyu.net/area/kaname>



## 令和5年金目地区の年越し・元旦初詣風景

### 初詣とその由来

皆さん！今年の初詣は行かれましたか？全国的には昨年より参拝客が多かったとのこと。年が明けて初めて神社や寺院などに参拝する行事。1年の感謝を捧げたり、新年の無事と平安を祈願したりする。初参・初参りともいいます。

初詣の由来は、平安時代から伝わる「年籠り（としごもり）」という風習だと言われています。「年籠り」とは、神社の氏子の家々の家長が、大晦日の夕方から元日の朝にかけて、氏神様のいる神社にこもり、新年の豊作や安全を夜通し祈るというものですが、時代を経てこの「年籠り」が、大晦日にお参りする「除夜詣」と、元旦にお参りする「元日詣」に分かれたのではないかと考えられています。江戸時代には、元日詣は「恵方詣」とも呼ばれており、人々はその年の恵方にある神社にお参りしていました。その後、時代の流れで、元日のお参りだけが残り、また交通網の発達などにより、恵方にこだわらず、好みや思い入れのあるお寺や神社にお参りに行くようになったと考えられています。

今年年金目地区の寺社（1寺院・7神社）における年越し・元旦風景を見てみましょう。

### 真田神社

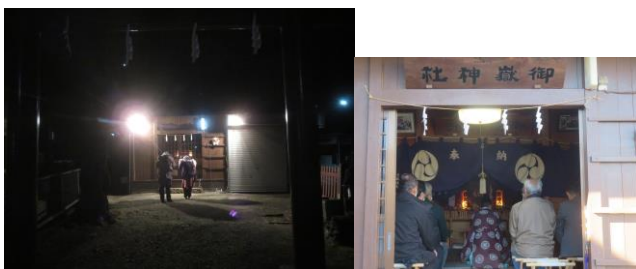
真田のお天王さんと言われ信仰を集めた真田地区の鎮守である。真田与一の郎党陶山文三の子孫が京都の八坂社から勧請したと言われ、当初は八坂神社と呼ばれていたが、明治9(1876)年に真田神社と改称された。

コロナ禍以前には大晦日の夜に、お焚き上げをし、甘酒や豚汁を振舞っていた。元日には比々多神社の神職を迎え歳旦祭を斎行している。



### 御嶽神社

堀之内の当神社は町内に火災が多かったことから明治18(1885)年武蔵御嶽神社を勧請したもので、以来堀之内の守り神として大切に祀られてきた神社である。



コロナ禍以前は境内でお焚き上げをし、初詣客を歓待していたが、コロナ禍の3年間は実施していない。元日は比々多神社から神職を迎え歳旦祭を斎行している。

### 北金目神社

北金目の鎮守で、古くは熊野社と称された。本殿は県下でも数少ない春日造りとなっており、市内の神社建築では最古である。これを収める覆殿は慶応4(1868)年に造られたものである。令和元(2019)年本殿修復事業竣工。

大晦日はお焚き上げのみ。コロナ禍前は甘酒を振舞っていたが、今はしていない。初詣客は鐘を自由に撞ける。元日は比々多神社より神職を迎え歳旦祭を斎行し、終了後は直会（＝なおらい）を行っている。当日の振る舞いはなし。



### 南金目神社

南金目の鎮守で、古くは熊野社と称され、地形から金目川の水の守り神、雨乞いの神とも言われている。明治9(1876)年に南金目村の5つの神社を合祀して今の社名となる。



大晦日にはお焚き上げをし、初詣客に汁粉を振る舞っている。元日には比々多神社から神職を迎え、歳旦祭を斎行し、御神酒を振舞っている。

### 片岡神社

片岡の鎮守で、雷電社とも言われ、永承2(1047)年に京都下賀茂神社より勧請したと言われている。高台にあることから被雷除鎮護の神として信仰が篤く、頼朝が安産祈願したとも言われている。



元日0時から出雲大社相模分祀より神職を招き元旦祭を行っている。境内ではお焚き上げをし、初詣客に御神酒、甘酒を振る舞い、破魔矢を販売している。コロナ禍以前は豚汁等も振舞っていた。

### 広川八幡神社

広川地区の鎮守にて、応神天皇を祭神とする。江戸時代までは善福寺と境内を同じにしていたが、後に分離し、高台から広川の水田を一望する稲作の守護神として崇められた。恵心作の阿弥陀如来像が祀られていたが、神仏分離で現在は善福寺にある。



### 金目観音(金目山光明寺)

金目山宝樹院と号し、天台宗の寺で、大宝2(702)年、道儀上人により創建された。カナヒの「お観音さん」と親しまれ、坂東7番札所である。



以前は大晦日の夜はお焚き上げをし、初詣客及び鐘撞者を歓待していたが、コロナ禍以降、夜は門扉を閉じている。その代わり元日から3日まで希望申込みにより鐘撞が行われている。

### 熊野神社

千須谷の鎮守で、弘安4(1281)年住民が熊野より勧請したと言われている。弘化4(1847)年に社殿を再建し、明治6(1873)年村社となる。



例年大晦日の行事はなし。元日に比々多神社より神職を迎え歳旦祭を斎行し、終了後は直会(なおらい=参列者一同で神酒・神饌をいただくこと)を行っている。当日宮総代が氏子を法螺貝で招集している。お焚き上げ、御神酒等の振る舞いはなし。

大晦日の夜には7年前から手作りの竹灯籠を製作し、初詣客の足元を照らすとともに境内に設置(今年は350基)し、幻想的な雰囲気醸し出している。また、当夜にはお焚き上げをし、御神酒、甘酒等の振る舞い、破魔矢の販売を行っている。今年の年越しの初詣客は1時間近く列をなしていた。出雲大社相模分祀より神職を招き元旦祭を実施。振舞い等は、大晦日と同じ。

